

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22330229

研究課題名（和文） 「女性文化人」の社会的形成に関する歴史社会学的研究

研究課題名（英文） Historical sociology study on the social formation of women intellectuals

研究代表者

稲垣 恭子 (INAGAKI KYOKO)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：40159934

研究成果の概要（和文）：本研究では、戦前・戦後の「女性文化人」の特徴とその社会的形成過程について、社会的背景、活動領域、メディア等を軸にして量的・質的両面から実証的に分析し、「女性文化人」の社会的位置の変化やその社会的意味を考察した。そのなかで、「女性文化人」に共通のイメージや特徴、1950年代以降の「女性文化人」の顕在化と多様化、現代の「メディア文化人」の社会的位置との関連を明らかにし、「女性文化人」の歴史社会学的研究の土台をつくった。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes the features and process of the prewar and postwar social construction of "women intellectuals", examining how their social position and social meanings have changed over time vis-a-vis their social background, career fields, chosen media and so forth. My work illuminates the shared image and characteristics of women intellectuals in this period, and has also identified both the process of diversification among such intellectuals beginning in 1950 as well as the connection between women intellectuals of this period to the social position of recent "media intellectuals". With this study, the foundation for further social-historical study of "women intellectuals" has been laid.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	4,200,000	1,260,000	5,460,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：女性 文化人 教養

## 1. 研究開始当初の背景

本研究に関連する先行研究としては、まずメディア研究のなかで行なわれてきた女性とメディアの関係をめぐるいくつかの研究がある（加藤、土屋、池田、石田等）。また、教育社会学においては、女性の教育とキャリ

アをめぐる実証的な研究（天野、加野、佐々木等）を挙げることができる。さらに、文学・芸術・科学・政治等の各界において活躍してきた女性についての個別の伝記的な研究はある程度、蓄積されてきている。

しかし、これらを「女性文化人」という視

点からあらためて捉えなおし、その社会的軌跡や社会的意味を研究したものはほとんど存在していなかった。

研究代表者は、高等女学校を中心とする女学生の教養文化の研究のなかで、モダンな教養文化と伝統的な「たしなみ」文化の両方が融合した独特の文化の特徴について論じてきた。また、そうした文化が日本における支配的な教養文化のなかでどのような社会的位置に置かれてきたかについても研究を進めてきた(2004, 2007, 2009等)。

論壇、文壇、テレビ、ラジオ等のメディアで活躍する「女性文化人」は、そうした女性の教養文化の代表的な担い手であり、「女性文化人」の社会的形成を明らかにすることは、女性の教養文化の果たした役割や社会的位置に新たな光をあてることでもある。近年、「女性文化人」の活躍が顕著になりつつあることから、その系譜や社会的意味を問うことは重要である。

本研究はこうした背景のなかで、先行研究の知見をふまえて、各種メディアで活躍した教養女性を広く「女性文化人」ととらえ、その社会的形成過程を明らかにするための基礎的な研究として位置づけられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本における「女性文化人」の特徴やその社会的形成過程を、個人のキャリア形成の軌跡と社会的活動の両面から明らかにすることによって、女性の教養文化を新しい角度から位置づけなおすことを目的としている。特に、近代的な知的教養の視点からだけでなく、伝統的なたしなみ型の教養が果たしてきた意味や役割にも光をあてることによって、「女性文化人」のさまざまなタイプやそれらの関係について考察し、日本における「女性文化人」の特徴や社会的位置をトータルに描き出そうとしている。

「女性文化人」に焦点をあてることによって、これまで高学歴男子の教養文化を前提としてきた日本の知識人・文化人研究とは異なるもうひとつの教養の系譜を描き出すことが可能になると同時に、現代社会における女性の教養や学問の意味を歴史社会学的な射程のなかで再考する上でも重要な意義をもつと考えている。

## 3. 研究の方法

各界で活躍する「女性文化人」について、量的・質的の両面からそれぞれ資料をもとにその社会的軌跡と社会的形成の過程を分析・検討した。具体的には、以下のような手順と方法で行なった。

(1)「文化人」「知識人」に関する先行研究の整理と検討  
これまでに蓄積されてきた日本及び海外の

男性知識人・文化人の歴史社会学研究、女性知識人の歴史・社会学的研究、文化人とメディアに関する研究などをもとに、「女性文化人」の定義やアプローチの方法論等について議論・検討し、基本的なスタンスの共有をはかった。

### (2)「女性文化人」の量的変化の分析

①人名録を用いて、戦前・戦後の「女性文化人」のプロフィールについて量的視点から分析を行なった。資料としては、『昭和23年版現代出版文化人総覧』及びその補修版を用いて、そこに記載された「出版文化人」(昭和18年から23年までに著作・論文等を発表した人物)4,778名の中の女性144名について、氏名、現住所、出生年、出身地、出身校、執筆専攻項目、閲歴、関係団体、最近の著書・雑誌論文、作品をデータベース化した。

②①のデータベースから、「女性文化人」が活躍する領域、メディア、時代などについて分析・考察した。

③さらに、各界(領域)における「女性文化人」の社会的属性(学歴、出身階層、婚姻等)、文化資本、社会関係資本等について分析・考察した。

### (3)「女性文化人」の社会的軌跡の質的分析

①(1)の分析結果と照らし合わせながら、「女性文化人」の活躍が顕著な領域(音楽、文学、伝統文化、家庭文化等)についてそれぞれ分担し、資料の収集と分析を行なった。資料としては、各界の「女性文化人」に関する文献資料・映像資料・個人資料等を収集し、その社会的背景やライフコース、活躍した時期や場、オーディエンス等についてより詳細に分析し、それぞれの領域の「女性文化人」の特徴について考察した。

②さらに、そのなかから女性文化人のタイプ(モダンガール系・たしなみ系)、活躍の土台あるいは媒体(論壇、テレビ、カルチャーセンター等)、活動領域(評論一般、文学、音楽、マナー等)等において代表的と思われる人物、あるいは特徴的なタイプの人物を選択し、それぞれ関連する文献、個人史資料、雑誌記事等をさらに収集し、より詳細な分析と考察を進めた。

③「女性文化人」の社会的イメージとその変化についても分析・考察した(主に雑誌記事の分析による)。各界における「女性文化人」のタイプ(特徴)とイメージの関係、時代的な変化などについて、社会的背景をふまえて分析・考察した。

### (4) 知見の相互検討と総合考察

(1)(2)の分析の経過と結果については、定期的に研究会を開いて報告し、相互に検討

した。また、外部から専門家（メディア文化研究）を招いて、「女性文化人」研究の理論・方法論や現在のメディア文化人との関係などについての議論の機会を設けた。

#### 4. 研究成果

以上の分析・考察から得られた主な結果は以下のようにまとめられる。

(1) 全体的な傾向・特徴としては以下のような点があげられる。

①「女性文化人」の受け手や市場、活動メディア、主に活躍した年齢、教育経験、交友関係などにおいて、「(男性)文化人」とはかなり異なる特徴がみられる。

②「女性文化人」の活躍が目立つようになったのは、主に戦後 1950 年代以降になってからである。

③戦前期の「女性文化人」と、戦後になって活躍した「女性文化人」とでは、その教育的・社会的背景やキャリア、活躍する場やメディアなどがかなり異なっている。

④戦後の「女性文化人」の活躍する場が、論壇・文壇からテレビ等のメディアを中心とする場に移行するのにもなって、両価的なイメージが顕著になってきたこと等が挙げられる。

(2) 戦前期の「女性文化人」は、主に女性論壇を中心に活躍していたが、そのスタンスには主に明治期の「武家娘」タイプ、大正期/戦間期の「モダンガール」タイプ、「エンゲルスガール」タイプ等に分けることができる。特に「モダンガール」型文化人は、「女性文化人」の拡大と社会的イメージの形成にとって重要な存在であった。

(3) 時代を超えて社会的に受容される「女性文化人」は、専門とする領域だけでなく家庭運営の技術や教育論、人生論などでも発言することが多く、家庭人としてのスタンスが求められる傾向が強い。

(4) 戦後は、1950 年代以降の思想・政治的状況の変化、女子高等教育の拡大、メディアの多様化といった社会的文脈の大きな変化のなかで、「女性文化人」の活動の場や社会的イメージも多様化しつつ拡大してきた。その過程のなかで、女性のオピニオンリーダーとして地位を確保していく一方、「軽薄文化人」の象徴とみられる場合もあった。「(メディア)文化人」の広がりとともに、「女性文化人」のイメージも変容していくことになった。

(5) 以上の研究成果については、個別に研究発表を行なったのに加えて、研究成果報告書（『女性文化人』の社会的形成に関する歴史社会学的研究」2013 年 3 月）としてまとめた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 46 件 中 11 件)

- ①稲垣恭子、濱貴子 「財界人・文化人の『師弟関係』-「私の履歴書」の分析から-」 「京都大学大学院教育学研究科紀要」査読有 第 59 号 2013、pp1-23
- ②稲垣恭子 「戦後日本における〈アメリカ帰り〉女性文化人」 『「女性文化人」の社会的形成に関する歴史社会学的研究』平成 22~24 年度科学研究費補助金(基盤研究 B) 研究成果報告書 査読無 2013、pp1-12
- ③目黒強 「女性文化人としての児童文学者—村岡花子を事例として—」 査読無 同上、pp13-28
- ④竹内洋 「もうひとつの大正教養主義—嗜み系”きょうよう”女性の存在」 『こころ』(平凡社) 査読無 第 5 号 2012 pp42-45
- ⑤高山育子 「『ブラジル人親子支援プログラム』参加を通じた学生の異文化理解」 『東海学院大学紀要』 査読無 2012
- ⑥竹内洋 「続・革命幻想の戦後史 (7-17)」 『正論』 査読無 2010-2011
- ⑦竹内洋 「テレビのなかで消費される知識人」 『中央公論』 査読無 10 月号 2011、pp54-61
- ⑧Kyoko Inagaki Communities of Nostalgia: friendship in girls' schools in pre-war Japan, Conceptualizing Friendship, its meaning and practice in time and place: Book of Papers 査読無 2010、pp189-202
- ⑨竹内洋 「大衆主義という圧力鍋社会における『教養』の不可能性」 『IDE 現代の高等教育』 査読無 527 巻 2011、pp206-208
- ⑩竹内洋 「大学教員の世代間格差と衝突・軋轢」 『IDE 現代の高等教育』 査読無 519 巻 2010、pp12-18
- ⑪稲垣恭子、「私淑とシシユク」 矢野智司・桑原智子編『臨床の知』創元社 査読無 2010 pp221-223

[学会発表] (計 9 件 中 4 件)

- ①高山育子 「保育における外国人親子支援の変化」 全国保育士養成協議会第 51 回研究大会 2012 年 9 月 7 日 ,京都文教大学
- ②高山 育子 (共同発表) 「ブラジル人親子支援プログラム」参加を通じた学生の異文化理解 日本保育会第 64 回大会 2011 年 5 月 11 日 玉川大学
- ③ Kyoko Inagaki Communities of Nostalgia: Friendship among Girls' School students International Conference for "Concept

ualising friendship, its meaning and  
practice in time and place  
2, Oct. 2010

Leiden University (Netherland)

- ④稲垣恭子 教師と学生のコミュニケーション—「私淑」とメディア— 日本教育社会学会 2010年9月18日 関西大学

[図書] (計8 件 中6件)

- ①稲垣恭子編 『教育における包摂と排除—もうひとつの若者論』(『差別と排除の[いま]⑤』) 序章「教育と若者の現在—包摂の「なかの」排除をめぐる」 明石書店 2012. 189 頁
- ②竹内洋『メディアと知識人』中央公論新社 2012. 373 頁
- ③稲垣 恭子(編) 教育文化を学ぶ人のために 世界思想社 2011. 288 頁
- ④竹内洋 学校と社会の現代史 左右社 2011. 193 頁
- ⑤竹内洋 革新幻想の戦後史 中央公論新社 2011. 546 頁
- ⑥稲垣恭子 「私淑」とメディアクラシー 北澤毅編『〈教育〉を社会学する』学文社 2011. 262 頁

[その他]

(講演) (計7件)

- ①稲垣恭子 「学問への憧れ—女学生の教養文化に学ぶ—」 広島県立府中高等学校 教育講演会、2012年5月12日
- ②稲垣恭子 「女学生の昔と今」 関西大学堺キャンパス『すこやか教養講座第IV期』 2012年1月28日
- ③稲垣恭子 「現代の中学生問題」 大津市比叡平市民センター 2011年11月19日
- ④稲垣恭子 「女学生の昔と今」 大津市比叡平市民センター 2011年7月2日
- ⑤稲垣恭子 「師弟関係の変容とアカデミック・コミュニティの現在」 関西学院大学神学部 FD研修会 2011年6月29日
- ⑥稲垣恭子 師弟教育の現在—人生の師と学校の先生と— 第57回コルモス宗教文化研究会 2010年12月26日 京都国際ホテル
- ⑦稲垣恭子 「近代神戸の女子教育」 行吉学園創立70周年記念講演会 2010年11月5日 神戸女子大学

[産業財産権]

○出願状況 (計0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

ホームページ等 無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲垣 恭子 (INAGAKI KYOKO )

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号 : 40159935

(2) 研究分担者

竹内 洋 (TAKEUCHI YO )

関西大学・東西学術研究所・客員研究員

研究者番号 : 70067677

目黒 強 (MEGURO TSUYOSHI)

神戸大学大学院・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号 : 70346229

高山 育子 (TAKAYAMA IKUKO)

東海学院大学・人間関係学部・准教授

研究者番号 : 30440572

(3) 連携研究者

(なし)

研究者番号 :